

調査結果の分析

調査結果の分析

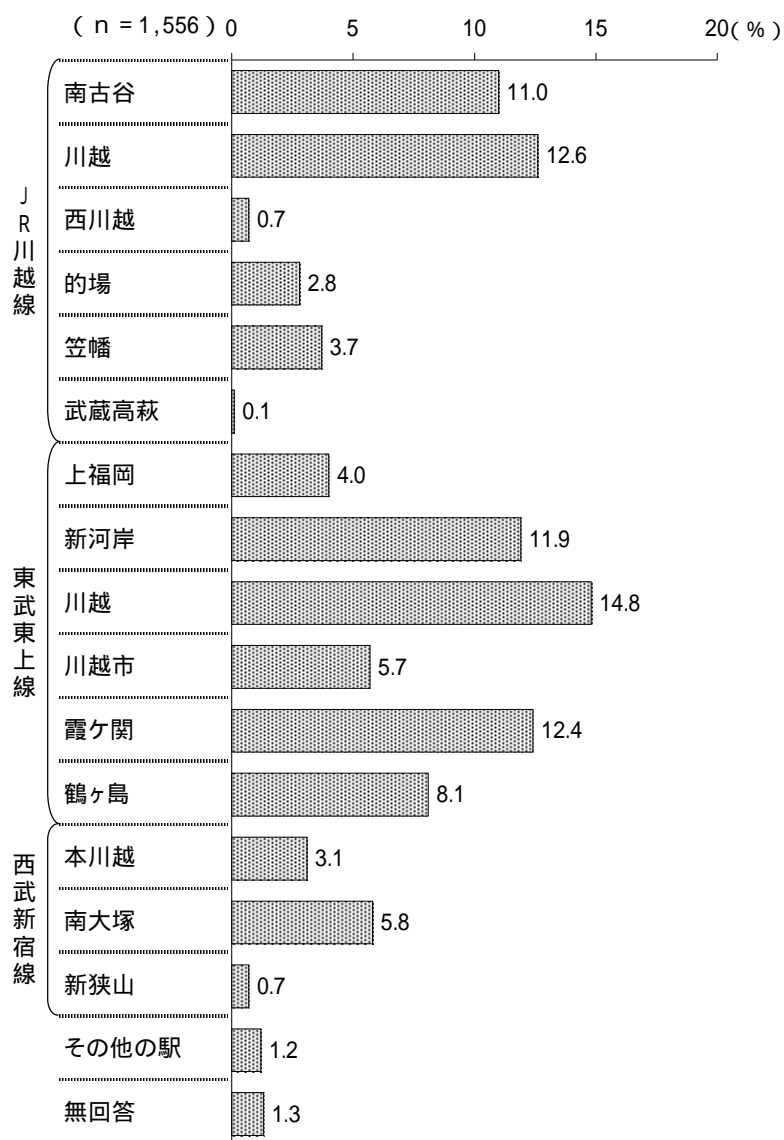
1. 都市基盤・生活基盤

(1) 主に利用する最寄りの駅

東武東上線「川越」駅の利用率(14.8%)が高い

問1 あなたが主に利用する最寄りの駅はどこですか。(は1つ)

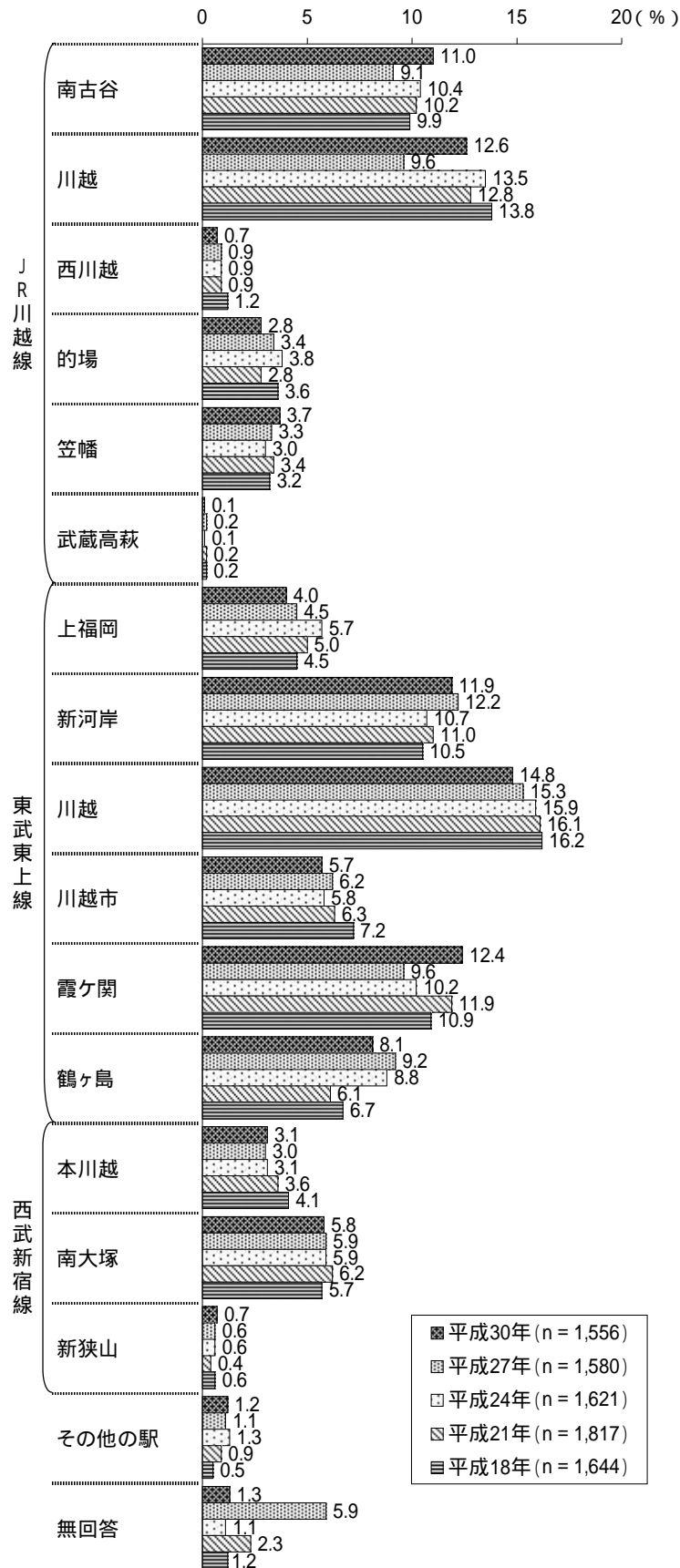
図表 1 - 1 - 1



主に利用する最寄りの駅をたずねたところ、東武東上線「川越」(14.8%)が1割半ばで最も多くなっている。以下、JR川越線「川越」(12.6%)、東武東上線「霞ヶ関」(12.4%)、東武東上線「新河岸」(11.9%)などの順となっている。(図表1-1-1)

時系列でみると、JR川越線「川越」は前回調査より3.0ポイント増加している。一方、東武東上線「川越」は平成18年以降減少傾向となっている。（図表1-1-2）

図表1-1-2 時系列 - 主に利用する最寄りの駅



上位5項目を地区別にみると、芳野地区、古谷地区、南古谷地区ではJR川越線「南古谷」、福原地区ではJR川越線「川越」、大東地区では西武新宿線「南大塚」がそれぞれ第1位となっている。それ以外の地区では東武東上線の駅がいずれも第1位となっている。市全体では、東武東上線の利用率の高さがうかがえる。(図表1-1-3)

図表1-1-3 地区別(上位5項目) - 主に利用する最寄りの駅

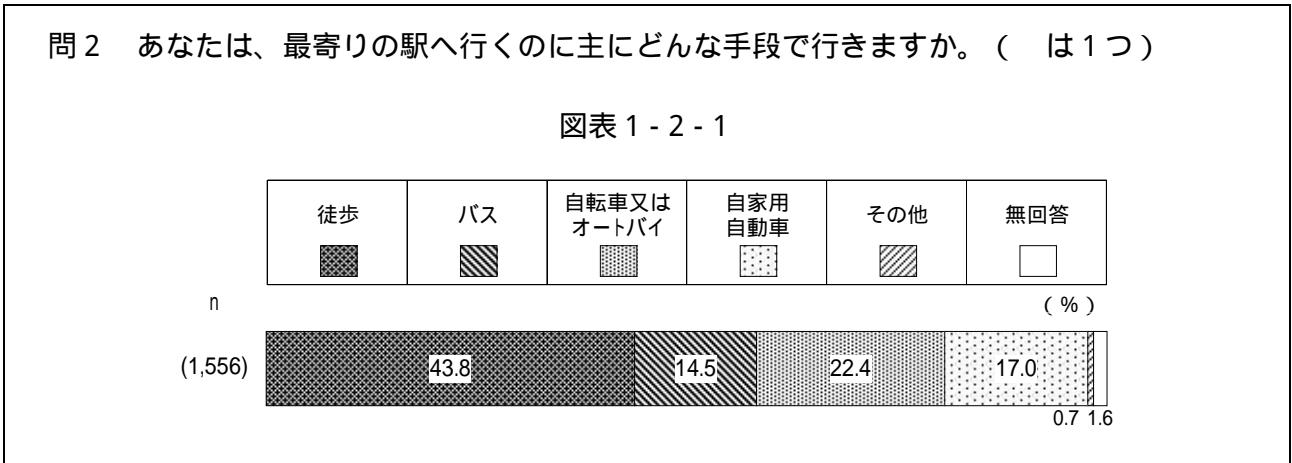
(%)

順位 属性	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 体	1,556	川越 (東武東上線) 14.8	川越 (JR川越線) 12.6	霞ヶ関 12.4	新河岸 11.9	南古谷 11.0
【地区別】						
本 庁 地 区	341	川越 (東武東上線) 34.9	川越 (JR川越線) 29.3	川越市 19.6	本川越 9.7	西川越 2.6
芳 野 地 区	48	南古谷 37.5	川越 (東武東上線) 25.0	川越 (JR川越線) 16.7	川越市 10.4	本川越 8.3
古 谷 地 区	66	南古谷 63.6	川越 (東武東上線) 13.6	川越 (JR川越線) 9.1	本川越 3.0	上福岡 1.5
南 古 谷 地 区	120	南古谷 85.8	上福岡 6.7	新河岸 3.3	川越 (JR川越線) 1.7	川越(東武東上線)/本川越 0.8
高 階 地 区	210	新河岸 73.3	上福岡 19.0	南古谷 2.9	川越 (JR川越線) 1.0	川越(東武東上線)/南大塚 0.5
福 原 地 区	85	川越 (JR川越線) 24.7	川越 (東武東上線) 23.5	新河岸 22.4	上福岡 9.4	南大塚 8.2
大 東 地 区	153	南大塚 51.0	川越 (東武東上線) 20.9	川越 (JR川越線) 14.4	新狭山 4.6	川越市/本川越 2.0
霞ヶ関地区	209	霞ヶ関 49.8	笠幡 24.4	的場 16.3	鶴ヶ島 2.9	川越 (JR川越線) 2.4
川 鶴 地 区	71	鶴ヶ島 83.1	霞ヶ関 4.2	川越(JR川越線)/川越(東武東上線)/川越市 2.8		
霞ヶ関北地区	56	霞ヶ関 71.4	的場/鶴ヶ島 10.7		笠幡 3.6	同率で11項目 (注)下記参照 0.0
名 細 地 区	101	鶴ヶ島 48.5	霞ヶ関 41.6	川越 (東武東上線) 3.0	川越(JR川越線)/本川越 1.0	
山 田 地 区	62	川越 (東武東上線) 43.5	川越 (JR川越線) 37.1	川越市 8.1	霞ヶ関 4.8	西川越/本川越 1.6

(注)「霞ヶ関北地区」の同率5位の11項目は、「南古谷/川越(JR川越線)/西川越/武蔵高萩/上福岡/新河岸/川越(東武東上線)/川越市/本川越/南大塚/新狭山」となっている。

(2) 最寄りの駅への手段

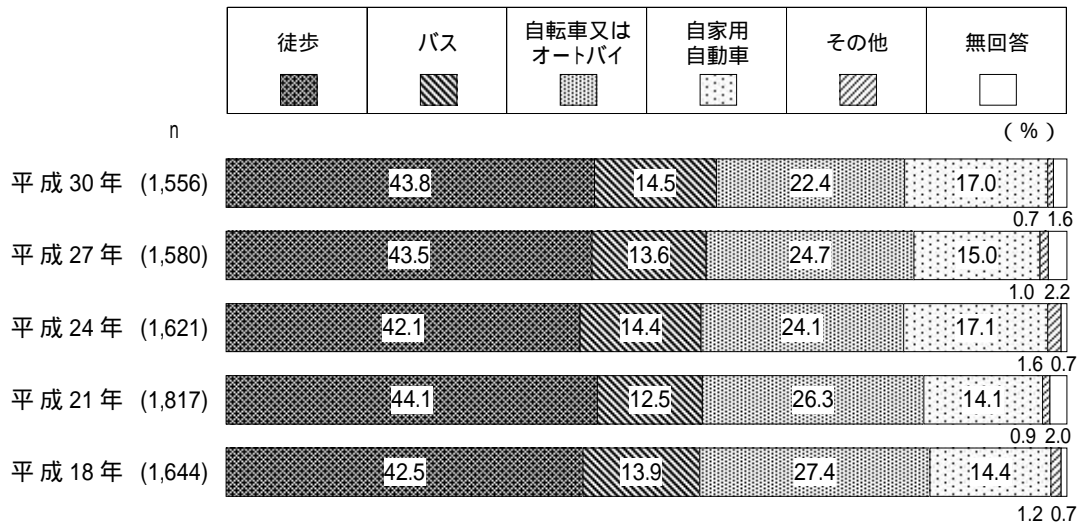
「徒歩」が43.8%



最寄りの駅への主な交通手段をたずねたところ、「徒歩」(43.8%)が4割を超えて最も多くなっている。以下、「自転車又はオートバイ」(22.4%)、「自家用自動車」(17.0%)、「バス」(14.5%)などの順となっている。(図表1-2-1)

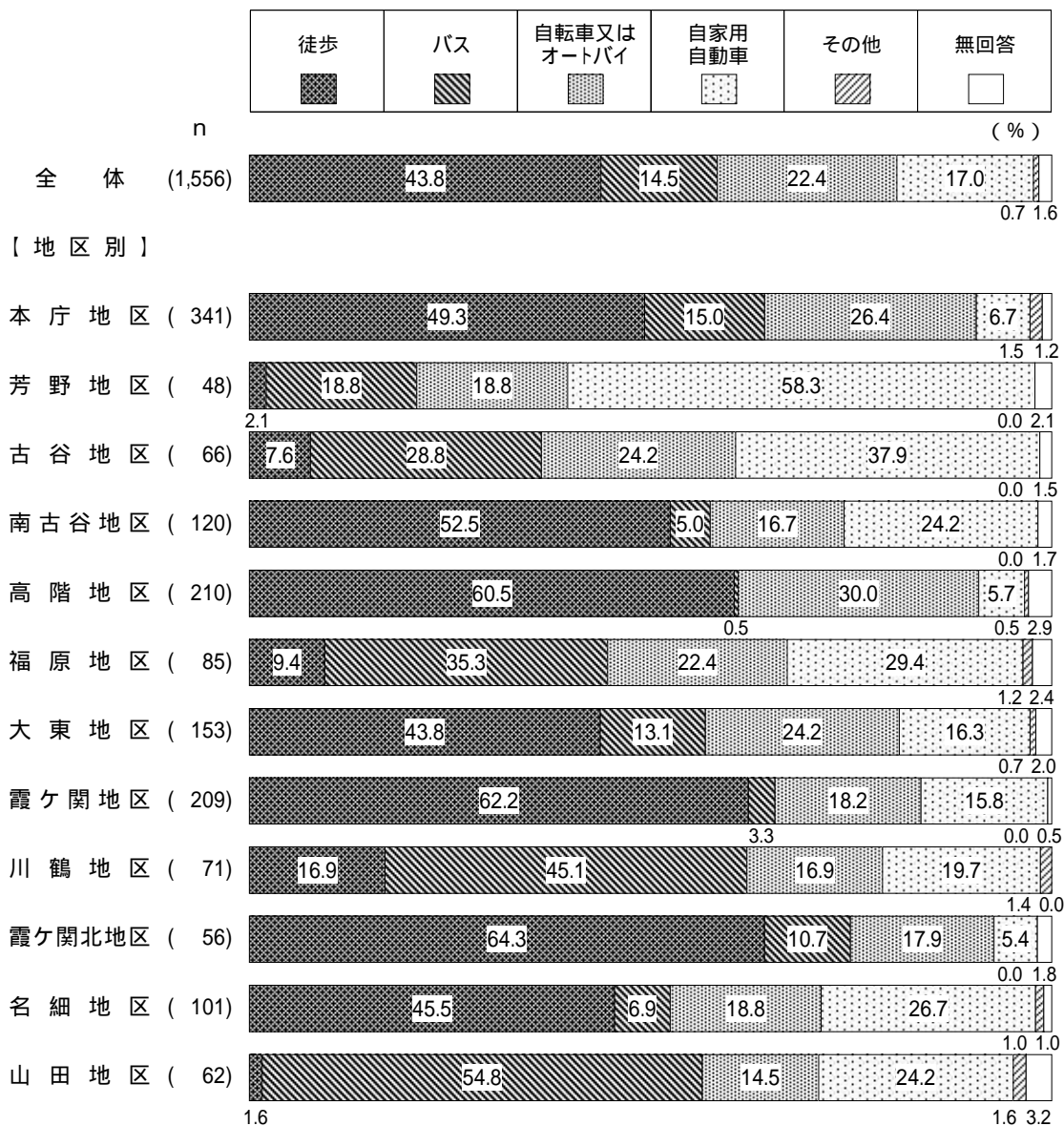
時系列でみると、前回調査と比べて大きな傾向の違いはみられない。(図表1-2-2)

図表 1 - 2 - 2 時系列 - 最寄りの駅への手段



地区別にみると、「徒歩」は霞ヶ関北地区、霞ヶ関地区、高階地区で6割台と多くなっている。「バス」は山田地区で5割半ば、川鶴地区で4割半ばと多くなっている。「自家用自動車」は芳野地区で6割近くと多くなっている。(図表1-2-3)

図表1-2-3 地区別 - 最寄りの駅への手段

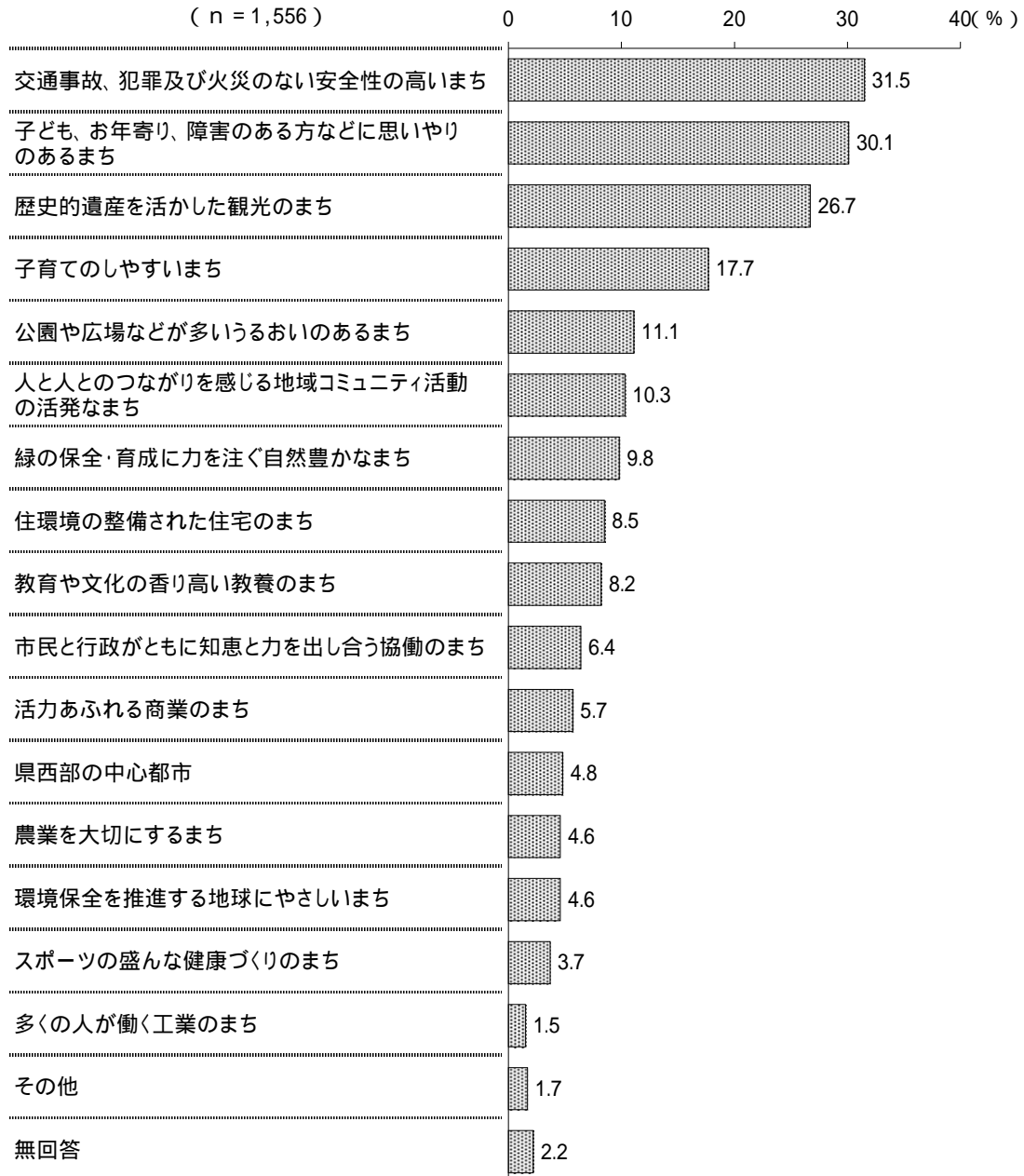


(3) 川越市の将来像

「交通事故、犯罪及び火災のない安全性の高いまち」が31.5%

問3 あなたは、川越市をどのようなまちにしたらよいと思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。(は2つ以内)

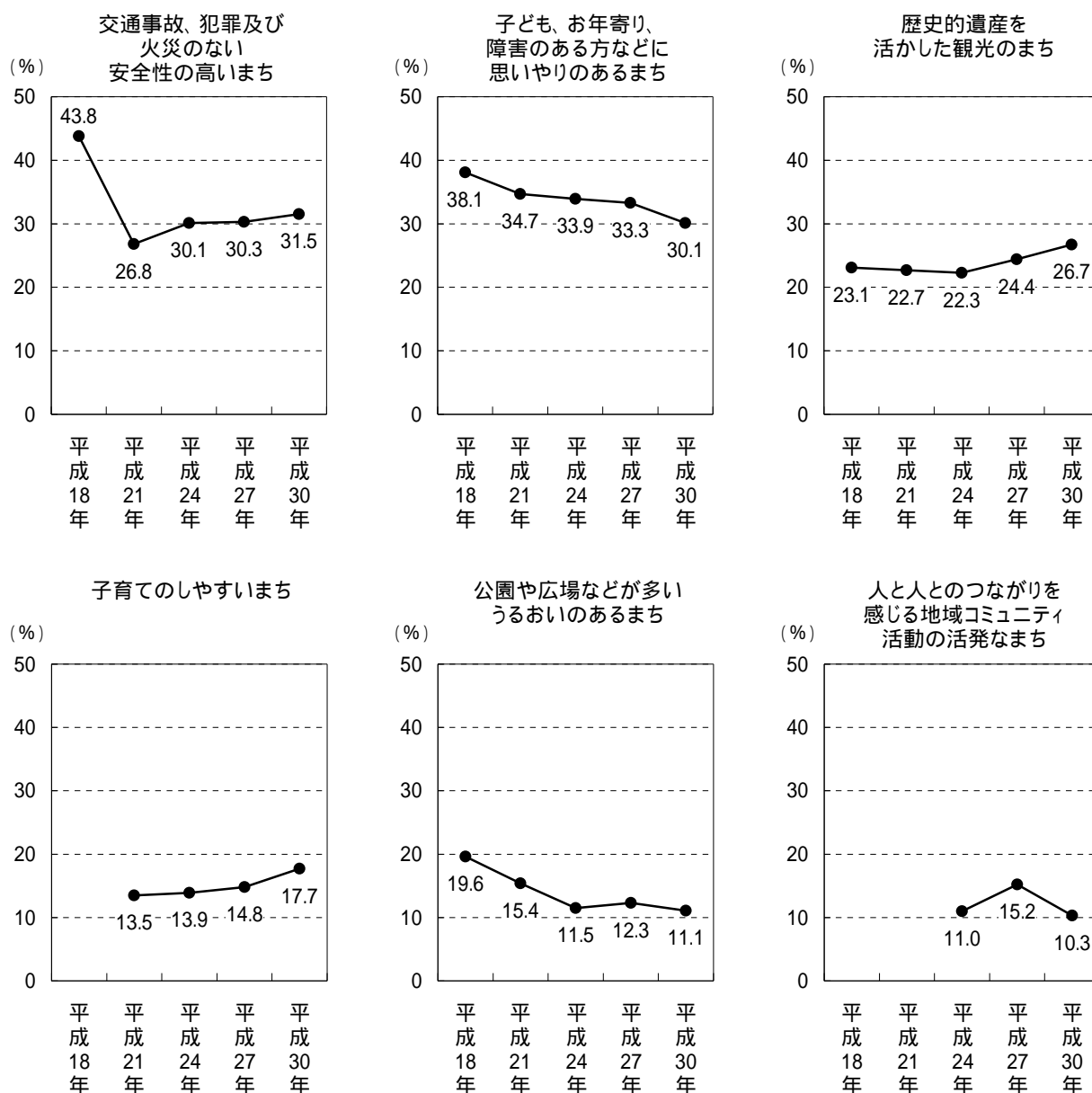
図表 1 - 3 - 1



川越市の将来像をたずねたところ、「交通事故、犯罪及び火災のない安全性の高いまち」(31.5%)が3割を超えて最も多くなっている。以下、「子ども、お年寄り、障害のある方などに思いやりのあるまち」(30.1%)、「歴史的遺産を活かした観光のまち」(26.7%)、「子育てのしやすいまち」(17.7%)などの順となっている。(図表1-3-1)

上位6項目を時系列でみると、「交通事故、犯罪及び火災のない安全性の高いまち」と「子育てのしやすいまち」は平成21年以降、「歴史的遺産を活かした観光のまち」は平成24年以降、それぞれ増加傾向となっている。一方、「子ども、お年寄り、障害のある方などに思いやりのあるまち」は平成18年以降減少傾向となっている。（図表1-3-2）

図表1-3-2 時系列（上位6項目） - 川越市の将来像

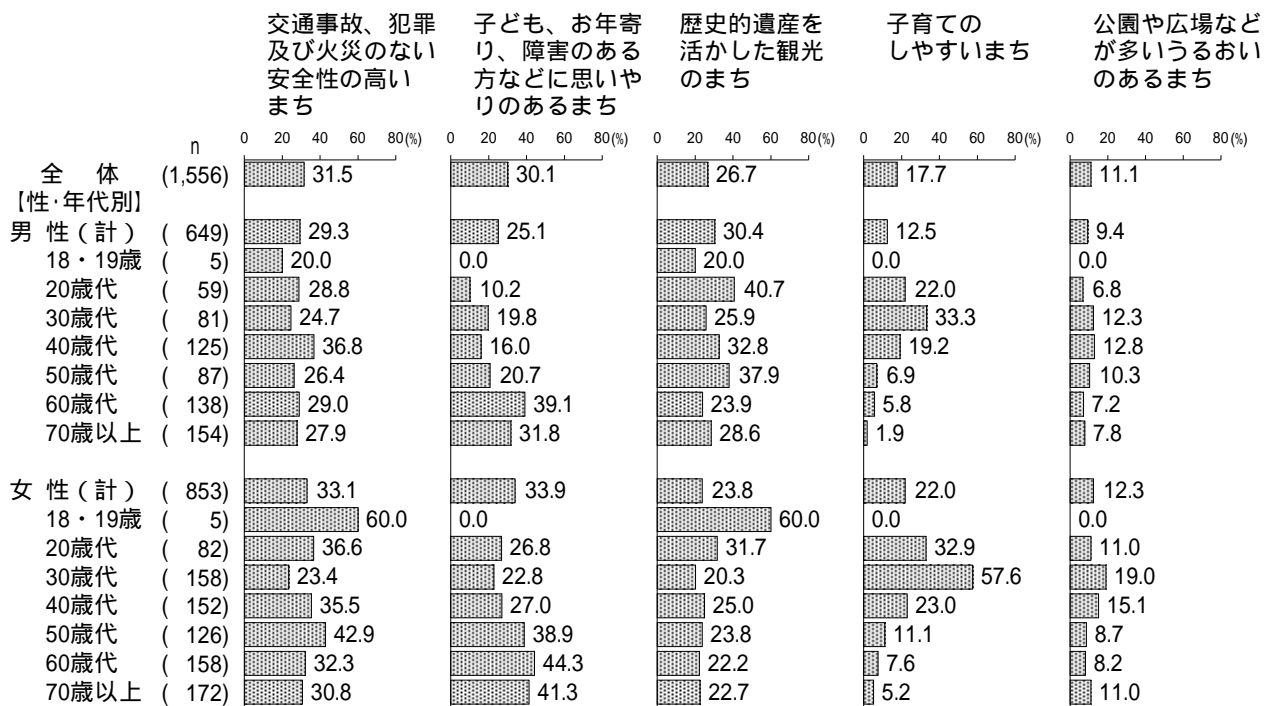


(注1) 「子育てのしやすいまち」は、平成21年から追加された選択肢。

(注2) 「人と人とのつながりを感じる地域コミュニティ活動の活発なまち」は、平成24年から追加された選択肢。

上位5項目を性・年代別にみると、「交通事故、犯罪及び火災のない安全性の高いまち」は女性50歳代で4割を超えて多くなっている。「子ども、お年寄り、障害のある方などに思いやりのあるまち」は女性の60歳代と70歳以上で4割台と多くなっている。「子育てのしやすいまち」は女性30歳代で6割近くと多くなっている。（図表1-3-3）

図表1-3-3 性・年代別（上位5項目） - 川越市の将来像

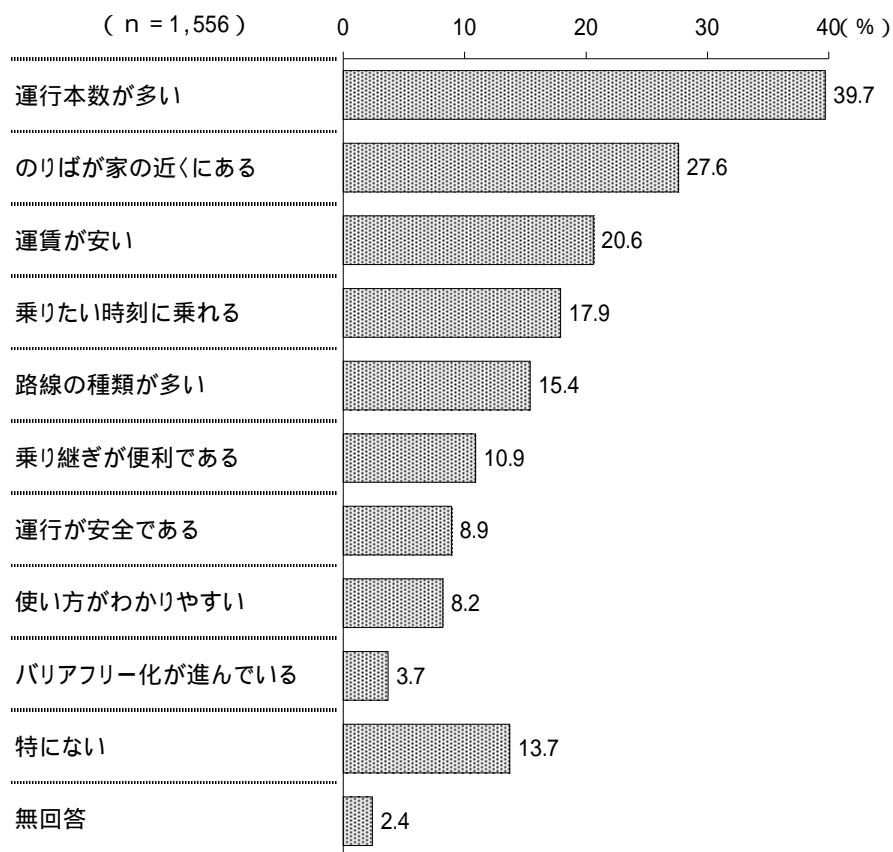


(4) 川越市内のバスに望むこと

「運行本数が多い」が39.7%

問4 あなたは川越市内のバス(路線バス・川越シャトル)にどのようなことを望みますか。
次の中から2つ以内で選んでください。(は2つ以内)

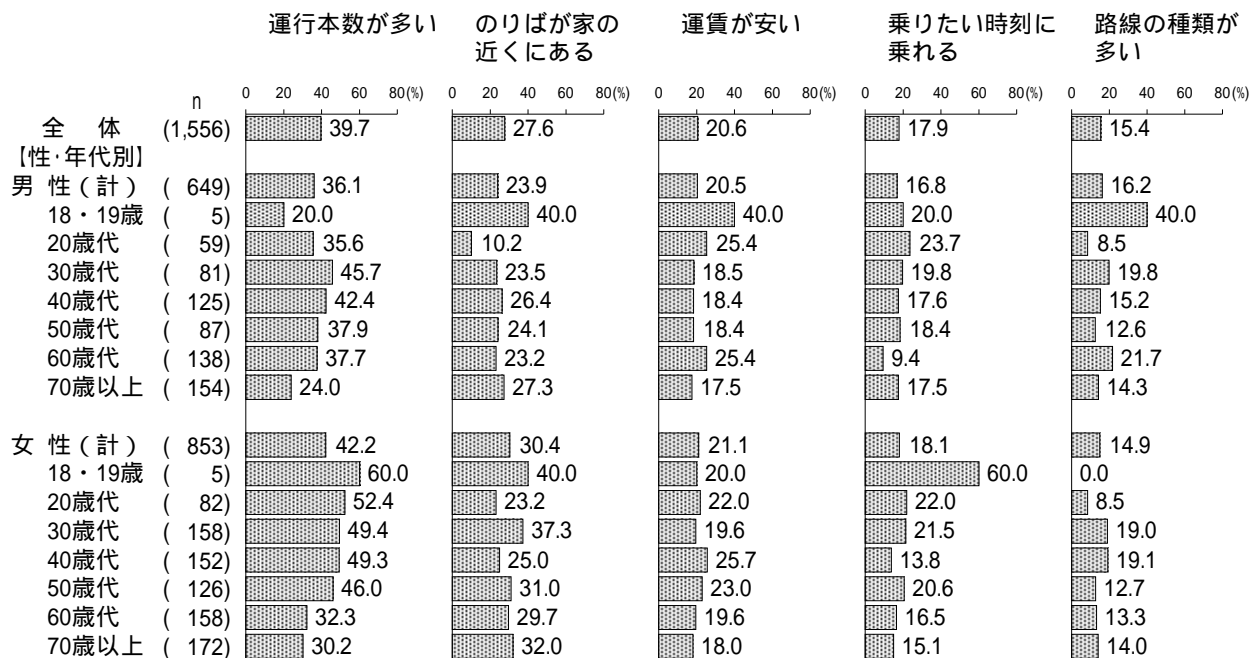
図表1-4-1



川越市内のバスに望むことをたずねたところ、「運行本数が多い」(39.7%)が4割で最も多くなっている。以下、「のりばが家の近くにある」(27.6%)、「運賃が安い」(20.6%)、「乗りたい時刻に乗れる」(17.9%)などの順となっている。(図表1-4-1)

上位5項目を性・年代別にみると、「運行本数が多い」は女性20歳代で5割を超えて多くなっている。「のりばが家の近くにある」は女性30歳代で4割近くと多くなっている。(図表1-4-2)

図表1-4-2 性・年代別(上位5項目) - 川越市内のバスに望むこと

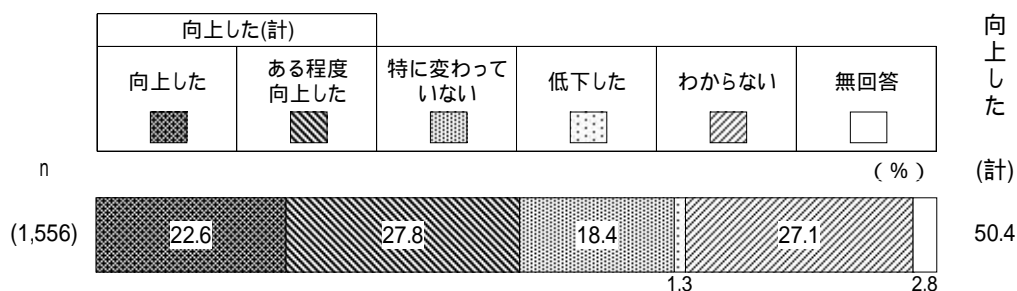


(5) 川越市の歴史的風致の向上

『向上した(計)』は50.4%

問5 あなたは、この10年間で川越市の歴史的風致(歴史的な建造物や歴史・伝統を反映した人々の活動等)が向上したと思いますか。(は1つ)

図表 1 - 5 - 1



この10年間で川越市の歴史的風致が向上したと思うかたずねたところ、「向上した」(22.6%)と「ある程度向上した」(27.8%)を合わせた『向上した(計)』(50.4%)は5割となっている。一方、「特に変わっていない」(18.4%)は2割近く、「低下した」(1.3%)はわずかとなっている。(図表 1 - 5 - 1)

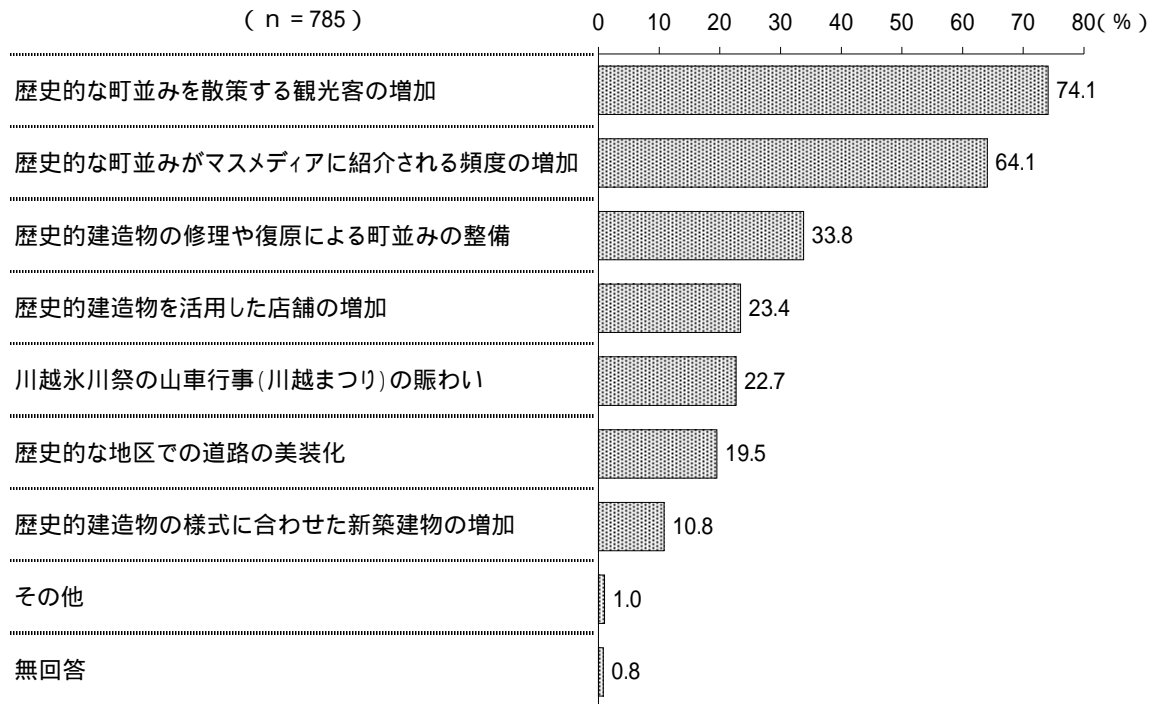
(6) 歴史的風致の向上した点

「歴史的な町並みを散策する観光客の増加」が74.1%

問5 で「向上した」「ある程度向上した」と答えた方におたずねします。

問5 どのような点でそのように感じますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。(○はいくつでも)

図表 1 - 6 - 1



問5 で歴史的風致が「向上した」「ある程度向上した」と答えた人(785人)に、どのような点でそのように感じるかたずねたところ、「歴史的な町並みを散策する観光客の増加」(74.1%)が7割半ばで最も多くなっている。以下、「歴史的な町並みがマスメディアに紹介される頻度の増加」(64.1%)、「歴史的建造物の修理や復原による町並みの整備」(33.8%)、「歴史的建造物を活用した店舗の増加」(23.4%)などの順となっている。(図表 1 - 6 - 1)